

平成 26 年度 第 6 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 27 年 1 月 29 日（木）午前 10 時～午前 11 時 45 分

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：13 名（欠席 2 名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開会

2 報告

- ・市民活動団体ヒアリング調査結果について（資料 1-1，1-2，1-3）

事務局より説明。

- ：ヒアリングに 4 回出席し，これからどう実行するかが大切で，すべきことが見えてきたと思う。
- ：市民や団体との合意形成が非常に大きなポイントなので，人材バンクなどについて，もう 1 回練る場が必要ではないか。具体的に誰がどう動くか，一緒に考えられれば，動く人も見えてくる。ヒアリングした団体でもいいので，もう一度練る場を作ってもらいたい。
- ：第 2 期の推進計画は，協働のプロセスを見ながら計画を作っていこうと共有した。情報を共有する意見交換の場が足りないという意見は，ヒアリングでもたくさん出たので，ぜひ，場を設けるようにしたい。具体的な施策について，そういう場を設けておけば，次のアイデアも出てくる。
- ：自分たちの団体が今どういう状態にあるのか，他の団体の方とやり取りをされる中で共有できたことだけでも成果があったと思う。
- ：私もヒアリングに参加したが，ネットワークということで，個々の意見を出しにくかった。団体の選出は書面で仕分けし，ヒアリングをしたので，意見が出しにくかったのではないかと。市民協働のまちづくり計画の骨子案を作っていくということが団体に伝わっていないと感じた。
- ：事前にヒアリングの案内を文書で説明させていただき，当日もヒアリングの前に説明をさせてもらったが，それが浸透していなかったのかと思う。
- ：行政からアンケートやお願いが団体などに行くが，みんなが同じ意識レベルで臨めるわけではないので，どう伝えていくかが大事になってくる。最初の入り口が違っていると，いい意見が出て，それが上に上がってこないことにもなる。
- ：アンケートを出す市民活動団体が多種多様で，聞かれる方も何を聞かれているか分からないのではないかと。今回のヒアリングもどういう設定で事前に何を聞くのか分かれば，準備もできたかもしれないので，そこが整備されると，より実のあるものになるのではないかと。
- ：市民，市民活動団体，いろいろな現場の人たちが，第 2 期の計画にどう関わったということを整理して，入れられるものであれば入れたい。
- ：聞き取りの方法はステップを踏んでいると思うが，課題を整理しておけば次回に繋がると思う。また，計画ができた後，それを実現するときにもう一度市民の意見が必要になることもあるので，他の計画づくりにおいても大事にすべき点として活かすことができると考えている。

- ：それを推進計画に活字として入れ込むことができないか。そこまで踏み込んでおいたほうが、市民の皆さんに第2期計画に対するモチベーションにもなるのではないかと思います。
- ：活字に盛り込むということは、それを使って何をするかということだと思う。年次計画を実行していくときに説明する側が、こういう意思を持って作ったということが問われると思う。
- ：この計画は全体の取りまとめを行うなかで、もう一度市民の方に聴くといったシステムづくりを記述したいと考えている。内容は委員の皆さんにご相談したいが、とりまとめの段階で入れたい。日常の繋がりが究極の結論だと思っており、それらを書くことによって解決に繋がると考えている。
- ：一工夫ほしいと思う。この点についてはまた議論したい。
- ：資料1-2の市の推進体制の部分、12月25日のヒアリング意見について、「町内会組織をどうにかしてほしい」とあるが、どういう内容でこの意見が出たのか。
- ：すべて整理できていないので、調べて回答させていただく。
- ：同じく資料1-2の市の推進体制の部分、12月18日で、「市からの助成金の情報が少ない」とあるが、助成金の一覧は団体に出しているのか。
- ：ここで指摘を受けたのは、例えば広報誌を通じて、コミュニティ助成という財団の補助金情報を提供しているが、財団の助成や国の制度で市民団体に直接助成されるものなど、市が今持っているものだけでなく、広く情報を整理して提供してほしいということだと思う。
- ：情報があるのに出していないということか。
- ：市でも整理できていないものがある。例えばトヨタ財団など個人や企業の支援策を行政から積極的に提供していない。こうした情報提供は、今後行政あるいは活動団体を支援する組織が行っていくべきではないかという指摘として受け止めている。
- ：分野ごとには、市の各課から団体に情報提供されている。地域組織へは政策企画課を通じてわりと一本化されているが、市民活動団体へは、団体を把握しているところが行政にない。それをどのように把握していくかという問題がある。
- ：今のご意見は、具体的な今後の対応策でいくとどの項目になるか。
- ：「多様な主体の連携が必要」になるかと思う。そこで、「広報・PRの充実」になる。
- ：団体の意見に共通しているのは、連携ができにくいとか、他団体の考えを聞きたいが機会がないということがあり、そういう場がないのか。ホームページもあるが、それだけでなく具体的に相談を受ける場や人がアドバイスするという機能が必要である。市民団体も、自分たちが自主的・主体的に情報をとりに行くように、結局両方のアプローチになる。
- ：そういうノウハウが盛り込まれていることを活字にしたい。
- ：アンケートでも担い手不足が出ている。役員の方が来られているので、役員としていろいろ講座を受けられていると思うが、良かったもの、効果的だったものを提供することで交流の場になる。盛り込むのは、もう少し具体的にしたほうがいい。そのほうが、市も動きやすいし、市民団体も考え方が違ってくるのではないか。
- ：計画に具体的な方法が盛り込まれると、どう動けばいいのかという後押しになると考えている。どう整理するか議論しないといけないが、そのあたりをまとめていければと思う。人材育成や講座を開催するとか、どういう研修をするのかも含めて大事なキーワードになってくる。

3 協議

(1) 第2期計画の骨子(案)について(別紙1)

(2) 推進方策(案)と現計画の施策対応表(別紙2)

事務局より説明(別紙1, 2まとめて説明)。

- : ヒアリングをし、課題や今後の方向性が見えて、第2期の具体的施策が上がってきているが、第1期と同じ施策も何件か上がってきている。同じ展開をしてもしかたがないと思うので、第1期の有効性を評価した上で、第2期の施策の展開をしていかないと、意味がないかと思う。
- : テーマだけを並べると、また同じことをするのか、内容をどう変えるのかという指摘が必ずある。第1期の検証は、いくつかはこの委員会で示してもらったと思うがどうであったか。
- : 前回の委員会でお示した。
- : どこが悪かったということで、課題が見えてきたと思う。
- : 必要な施策として、いろいろ取組みをしてきたが、アンケートの満足度は、結果として低かった。前計画に基づいて実施したものが、協働のまちづくりで効いていなかったところもある。施策は大きな取組みのくくりで、そこに同じ施策があるが、内容は整理する必要がある。
- : そこが現れてくるのは、2.2.1の(2)だと思う。第1期の成果、満足度、内容をどう整理するか、また事務局と打合せをする必要がある。第2期でテーマ的には同じ施策だが、内容は反省を基に違っていると、少しでも市民の方に分かるよう整理ができればと思う。
- : アンケートを市民活動団体と住民組織に分けて実施し、計画の骨子でも、市民協働の担い手の現状で2つに分けているが、最終的な推進方策では、どちらに対してもという形にするのか。市民活動団体、住民組織それぞれに対して分けるのか。
- : それはまだイメージであって、今日意見をいただいて、どうまとめるかだと思う。
- : ○が二つあって、重なる部分と重ならない部分は出てくると思う。
- : 共通の部分と団体の部分、町内会の部分、それぞれが分かるような計画にする必要がある。
- : それは必要だと思う。特にPRや広報の部分はまったく違う。重なる部分はいいが、重ならない部分は2つに分けたほうがいい。
- : 人材バンクやまちづくりプラットフォームなど具体的な名前が上がっているが、人材バンクはどのようなイメージをされているのか。これを詰めていくのは次のステップになるのか。計画が決まった後に具体的に詰めていくのか。
- : 大きな方針の部分を決めさせていただき、予算を伴うものなど、もう一度検討する必要があるので、より細かい部分については、来年度この委員会でも諮りながら進めさせていただきたい。
- : 第1期と第2期で具体的施策のタイトルが一緒なので、具体策をしっかりと皆さんに分かるような方法を考えないといけない。続ける部分はこの委員会で検討し、第2期は第1期との違いをアピールできるようにしないとけない。
- : 私もその意見に賛成である。1つ例を教えてもらいたいのだが、第1期に人材バンクの構築・活用とあるが、どういったものを目指し、どういうものをつくって、どう不十分だったから、今回もう一度載せることになったのか。
- : 第1期では、市民活動団体や住民自治組織などが抱える課題に、市民の有する技術や知識を生かし

て解決に導く仕組みを構築するため、支援する人たちをデータバンクとして整理し、団体等へ派遣する考えであった。実現については、人材バンクが構築できていないのが反省点である。

ヒアリング、アンケートでも、人材バンクで支援できれば、その団体がより活動しやすくなるといった整理から、今回も人材バンクは市として検討していくべきということで入れている。

- ：必要性があることが分かったから、計画に載せているということだが、なぜ実現しなかったのか。それから、継続と新規以外に改変が分かる項目を設けたらいいのではないか。何か変えて同じ施策をするのならば、改変的な言い方でカテゴリを設けるとより分かりやすいのではないか。
- ：交流する場があって、この人にはこれを頼めるという縁ができ動き出す。人材養成講座の開催はいいが、どういった技能、技術が必要とされているかにブレイクダウンしないと見えない。協働のまちづくりというより、私たちの暮らしづくりだということを実現し、計画骨子案に求められる背景を入れたほうがいいのではないか。集まる場、人と人が出会うことの大切さ、それによってはじめて動く、そこも含めて考えたほうがいいのではないか。
- ：三原市防災ネットワークが今言われた場になっている。所属している11団体が、いろいろなノウハウを持っており、例えば、防災訓練でこの訓練をするときはこの団体をお願いするというやり方である。そういう形の人材バンクが必要なのではないか。市民団体も仕分けしてあるが、仕分けの中での人材バンクはできるが、それを超えての人材バンクは難しいと思う。
- ：防災をテーマに団体が集まる場があって、人材が財産となり、人材をバンクに登録してもらうようなシステムを作っていけば、その積み重ねが市全体に広がっていく。それを次にどうつなげるか。
- ：ヒアリングで団体を分野ごとに分けているが、(人材バンクをつくるのは)この単位ではないか。
- ：協働を進めるには、テーマで繋がりやすく、人のサポート、情報の整理もしやすいということが、第2期計画で分かってきたことであり、そこから方向性を見つけていくことだと思う。目次案で気になるのが、2と3の間に新しい章を設け、第2期計画はどのように見てほしい、使ってほしいということを入れたほうがいいのではないか。
- ：背景の部分に注目してもいいのではないか。何を目指してそれをやらなければならないのか分かりやすく表現すべき。協働を進めるにおいて、どこを目指すから、皆さんの力が必要で、行政もこうした取組みをするということがありと分かりやすいと思う。それが前の段階で必要だと思う。
- ：指針の作成時に重要になったのが住民自治という考え方だった。
- ：広報・PRの充実で、多くの市民活動団体は外部への広報が少ないと感じる。つなごうねっとは市民団体向けのようになっているので、もっと外部へ広報できるものがないと思う。それから、骨子案の2.2は、課題があって取組内容があるので、現状と課題としたほうがいいのではないか。
- ：テーマで共通の場を作り、そこで人材バンクに繋がるというやり方でいけると思う。そして、楽しいことを発信して共有する。計画の大きいテーマは、それが伝わるように作らなければいけない。具体的な方法、ノウハウは次の章になるのかもしれない。
- ：市の広報誌で協働の取組事例などが掲載されるが、それを入れ込むことができないだろうか。具体的にこういうことができる、やってみようと思わせるような、従来とは違う計画でもよいのでは。
- ：国の報告書なども事例がたくさん入っている。それをイメージしたらいいと思う。それと、言葉の説明、解説をするコラムのようなものを入れたほうが、計画書を実際に読む動機になると思う。

- ：皆がこの計画を持ちながら、まちづくりをしていただけるようなものにしていきたい。
- ：今日は大変貴重な意見をいただいた。まず、分かりやすい、違いが分かる、そして、従来の計画らしくないものということであった。基本的には、皆さんが集まれる場づくりが必要になると思う。いただいた意見を基に案を作成する。

4 その他

事務局より、1月23日（金）に住民組織へヒアリングを実施したこと、内容は次回の委員会で報告することを説明。

5 閉会